

(第3種郵便物認可)

福井市

夢風船

安居小6年 高原 杏佳さん



「一に看病、二に薬」といいます。看病で治らなかつた人に私が作った薬を飲んで元気になってほしいです。そして祖父と祖母にも薬を飲んで元気になしてほしいです。

「ありがとう」「夢風船」「話しわい」コーナーへの投稿を募集しています。問い合わせは本社社会部、または県内各支社、支局まで。

詩作の原風景 巡ろう

NPO 清水西地区 20日第一弾

故広部英一さん



故広部英一さん

福井市出身の詩人で、本県の詩壇を長くリードしてきた故広部英一さんの詩作の「原風景」を巡る「ふるさと学級」ふるさとの自然から文学を訪ねる(福井新聞社後援)が20日、同市清水西地区で始まる。広部さんと交流が深かった山岳エッセイの増永迪男(さん)が講師を務め、里地・里山の風景を眺めながら広部さんの作品について解説する。(渡辺一誠)

年間を通じて農林水産業の体験教室などを開いて

山岳随筆家 増永さん作品解説

増永さんは、県立図書館に勤務しながら詩作を続け、1968年に詩誌「木立ち」を創刊。旧清水町立図書館長も務めた。増永さん(52)は、木立ちの同人で、広部さんと共著のエッセー集「わが山・ふくいの詩」には、2人の対談も収められている。初回の20日は広部さんの作品「すいれんがテーマ」午前9時から同図書館で、学芸員から施設の説明を受け見学する。その後、清水西公民館から同市山内町のハス池まで移動し、増永さんが創作の背景などを解説する。ため池な

市7次計画策定へ初会合 新幹線、人口減など議論 審議会 来年2月に答申

福井市のまちづくり指針となる「第7次市総合計画」(2017〜21年度)の原案を作成する総合計画審議会の初会合が8日、市役所で開かれた。人口減少や北陸新幹線開業など社会変化に対応するための政策や施策を議論し、来年2月に東村新一市長に答申する。審議会は公募の市民6人を含む、市議や学識経験者、各種団体の代表者ら計30人で構成。初会合



第7次福井市総合計画策定に向けた審議会の初会合(8日、市役所)

では東村新一市長が委員に委嘱状を交付し、会長に眞弓光文福井大学長を選出した。市側が議論のたたき台として7次計画の素案を提示。人口減少や厳しい財政状況、北陸新幹線開業といった市を取り巻く環境の変化に対応する14の政策と48の施策を示した。一方、「自然・活気・誇りにみちた 人が輝く かけがえのないまち」をテーマとして、市民から意見を募り、審議会の議論に反映させたい」との目指すべき

「天皇の料理番」足跡、レシビ紹介 西武福井で特別展 「天皇の料理番」として知られる越前市出身の料理人、秋山徳蔵の特別展が8日、福井市の西武福井店で始まった。徳蔵の足跡やレシビなどをパネルで紹介している。8日、福井市の西武福井店

「自然・活気・誇りにみちた 人が輝く かけがえのないまち」をテーマとして、市民から意見を募り、審議会の議論に反映させたい」との目指すべき

「お年寄り笑顔」 エステ店福祉施設で奉仕活動 福井市の「クールエス ティック福井店」のスタッフが、お年寄りにステーション12人が8日、同市加茂河原3丁目の特別養護老人ホーム「なの花」で、お年寄り約30人にマッサージ奉仕を行った。お年寄りは気持ちいいとお顔をみせていた。お年寄りの手もみほぐし



ハンドマッサージを受け「気持ちいい」と笑顔をお年寄り(8日、福井市加茂河原3丁目の「なの花」)

「お年寄り笑顔」 エステ店福祉施設で奉仕活動 福井市の「クールエス ティック福井店」のスタッフが、お年寄りにステーション12人が8日、同市加茂河原3丁目の特別養護老人ホーム「なの花」で、お年寄り約30人にマッサージ奉仕を行った。お年寄りは気持ちいいとお顔をみせていた。お年寄りの手もみほぐし

季節の食材で献立を 仁愛女短大講座 主婦 4品学ぶ



季節の食材を使い料理を作る参加者たち(6日、福井市の仁愛女子短大)

仁愛女子短大の食育講座が6日、福井市の同短大で開かれた。季節の食材を使い家庭でも簡単にできる献立を、同市内の主婦が学んだ。同短大地域活動実践センター公開講座の一環で開かれた。季節の食育講座は毎年4回開いている。本年度1回目の今回は「春の日本料理」をテーマに「アサリ(飯

ガザニアの苗を プランターに移植

手作りプランターで自分たちのまちを彩ろう。福井市進明中の生徒が6日、紫やオレンジ、黄色など色とりどりのガザニアをプランターに移植する作業を、松本地区住民とともに松本公民館で行った。同市民憲章推進協議会松本支部と同校が企画し、技術部生徒と住民約25人が参加した。プランターは、同校2



手作りプランターに色とりどりのガザニアを移植する進明中の生徒(6日、福井市松本公民館)

年生の手作り。杉板製の縦約15枚、横約30枚、高さ約15センチで、技術の授業に2株ずつ移し、スコップで優しく土を入れていった。移植したガザニアのプランターは同地区の希望者に配布されるほか、同公民館にも飾られる。同校2年の櫻井蒼君(13)は「僕たちが手作りしたプランターの花でまちが華やかになってくれれば」と笑顔で話した。(山本雅史)